

溪流調査結果概要

2014/08/30 13:00 ~ 16:00

泉山（土木研究所）

内田（四国地方整備局 国土技術政策総合研究所併任）

大田（中国地方整備局）

1. 対象溪流

小原山川（土石流危険溪流番号：I-1-9-303）

小原山川は広島県広島市安佐南区八木で大きな被害を引き起こした溪流である（図-1）。図-1 に示す赤のハッチ箇所は国土地理院の空中写真判読（8/28 垂直写真使用）により判明した土砂流出箇所である。なお、図-1 に示す支川 C は本調査では確認していない。

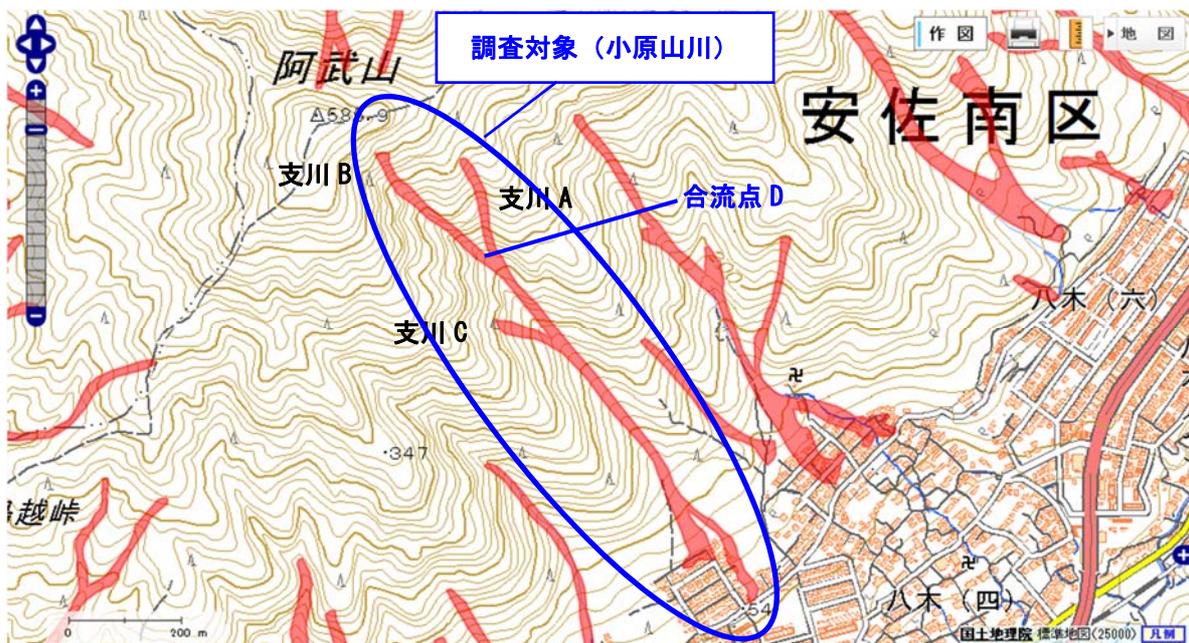


図-1 現地調査対象溪流と土石流流下範囲（地理院地図 HP より）

2. 調査結果



写真-1 本川下流部（被災家屋周辺）



写真-2 本川下流部

写真-1, 2 は本川下流部の状況を示す。なお、写真中に示す矢印は流水の方向であり、以下同様である。本川下流部では大小様々な砂礫が堆積し、砂が主に堆積している箇所においては非常にゆるい箇所が点在していた。また、急勾配なため基本的に侵食傾向にあった。



写真-3 本川中流部①



写真-4 本川中流部②



写真-5 本川中流部③



写真-6 支川合流点 D

写真-3 ～ 6 に本川中流部の河道の状況を示す。写真に示すように、本川中流部の河床は岩盤が露出した区間が続いていた。側岸は土砂で構成されていることから考えて、急勾配であること及び両支川の合流により流量が大きくなるために土砂の堆積が起りにくい条件であることがその理由と考えられる。なお、側岸は土石流の流下時に侵食された痕跡が確認された。また、写真-5 に示されるように、流路が湾曲する箇所ですり流が側岸に衝突しながら流下したため、左右岸で侵食高さが異なる箇所が見られた。なお、調査時点では支川合流点 D 付近から湧水が確認され、それより上流では河床上の流水の存在は確認されなかった。



写真-7 支川 A の状況



写真-8 支川 A 源頭部の状況

写真-7, 8 は支川 A の状況を示す。写真に示されるように、源頭部では河床上に土砂の堆積が確認された。今回の災害では溪床堆積物の再移動であると思われる。源頭部の勾配は約 40° である。



写真-9 支川 B の状況



写真-10 支川 B 源頭部の状況

写真-9, 10 に支川 B の状況を示す。写真に示されるように、支川 B の河床上には砂礫の堆積が見られた。今回の災害では溪床堆積物の再移動であると思われる。源頭部の崩壊地の勾配は約 28° である。